

地域情報化アドバイザー活用優良事例

優良事例団体

団体名：伊丹中央サンロード商店街振興組合

- 組合員情報 : 49
- 地域情報化アドバイザー名 : 畑井 克彦氏
- 派遣対応年度 : 平成20年
- 派遣回数 : 2回
- 支援形態 : 個別アドバイス(助言)
- 支援分野 : 地域コミュニティ/SNS、地域情報発信/観光、

事業概要

- 事業名：いたみ商店街活性化プロジェクト
- 事業の概要：「いたみ商店街活性化プロジェクト」として、地元の市立高校が教科「情報」の授業として店のHP作成などの事業を展開している。また、地域SNSを活用した都市一農山漁村間ヒト・モノ交流システム事業のパイロット店を商店街で出店も行っており、これらを機にアーケード改修に併せて商店主と消費者の交流を促進するため、商店街の情報化を図る。

地域情報化アドバイザーへの依頼内容

- 依頼内容：現在、商店街に設置しているアーケードが老朽化しているため、この度改修を検討している。その改修の際に、地域SNSによるコミュニケーションなどを活用し、商店主と消費者の交流を図っていくことに関し、助言をいただく。

地域情報化アドバイザーの取組

- 支援内容：
現在、商店街に設置しているアーケードが老朽化しているため、この度改修を検討している。その改修の際に、アーケード改修に併せて商店街自体に付加価値をつけていくべく会議を開催している。その中で、地域情報化についても大きなツールとして考えており、地域SNSによるコミュニケーションなどを活用し、商店主と消費者の交流を図っていく方向で進めている。アドバイザーからは、具体的に「ユビキタスネットワーク事業」として、アーケード内無線アンテナを設置し、消費者がモバイル端末、携帯電話による情報収集ができるよう提案



伊丹中央サンロード商店街振興組合への助言風景

支援を受けたプロジェクトの最新状況

■ デジタルサイネージの導入：

災害時の情報提供を通常時に活用するという一方で、デジタルサイネージを導入している。コンテンツ作成が、課題であるが、デジタルサイネージ協議会を立ち上げてサポートしている。

具体的な動きとしては、商店主と市民対象にビデオ撮影・編集講習会を開催している。また、多くのコンテンツを集めようと、市民からの提案で、「伊丹映像祭」を開催し、100本以上のコンテンツが集まった。市長をはじめ、プロの映画監督(片元亮監督)が支援したこともコンテンツの品質が上がった理由だ。

(平成23年6月12日開催)



□ 商店街に設置されたデジタルサイネージ(無線ポイントを活用)

伊丹映像祭の表彰式の様子

地域情報化アドバイザーからのメッセージ



畑井 克彦 (はたい かつひこ)

伊丹市立伊丹高等学校 情報科主任
関西学院大学 非常勤講師(フィールドワーク担当)

■ メッセージ : 商店街と地域のつながりが実現している良い事例だと言える。デジタルサイネージで使うデジタルコンテンツを業者委託するのではなく、地域のメディアに強い人たちの協力を得て、店主自らが作成しようとしていることが評価できる。

また、伊丹で映画作製してこともあって、映画監督を巻き込みながら、映像祭を行うことで、映画撮影のノウハウを習得出来たことは大きい。市民の中の、楽しみながら面白いことをやろうとする人たちのパワーをうまく引き出していることが、大きな成果につながったと思われる。

映像祭では、店舗賞として商店街から商品を出してもらうというアイデアで大変盛り上がった。この商品を提供してもらうことについて、高校生が店舗を回って協力依頼をかけた。多くの人がつながっていきっかけになっている。